



## 博覧会とは？

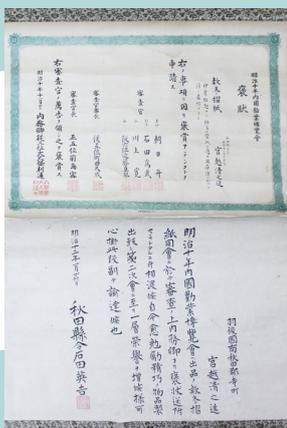
明治期の博覧会は、様々な美術作品や生産物品などを展示・公開することで、人々の知見を高め、販路拡大や産業振興をすすめることを目的とした催しでした。特に、殖産興業に大きな役割を果たしました。

明治政府が初めて博覧会に出品したのは、明治6年ウィーン万国博覧会でした。秋田の工芸もこの時海を渡り、世界への扉が開かれました。明治期の博覧会の記録には、相当数の本県関係による工芸品出展と、博覧会を起点としたデザインの変容や市場の拡大の様子がみられます。

本展示では、秋田の工芸について、博覧会との出会いとそれによる進化という今までにない視点から、歴史的背景などとともにご紹介します。

博覧会出品作が現存するのは  
珍しいっ！

博覧会へ出品された秋田の工芸品は、博覧会事務局に買上げられ国内外で販売されたため、その後の所在についてはほとんどわかっていません。今回初めて、明治10年内国勲業博覧会に出品された秋田蒨摺が名古屋で現存していたことが判明しました。



博覧会受賞の褒状  
(宮越力氏蔵)



安喜多富貴印葉図  
(名古屋市東山動植物園蔵)



博覧会資料は、  
新しい知見がたくさん♪

旧太田町の紫塗は、不明な点が多く幻の技術とされています。倉田維一が発明し一代で潰れたとされていましたが、博覧会関係資料には、父である倉田初蔵が紫塗をすでに出品している様子がみえます。また、紫塗は角館榊細工にも関係があったことがわかってきました。



紫塗 菓子器 (当館蔵)



榊細工 菓子器 (個人蔵)

武家の御用品が変化を遂げたぞっ！

江戸時代に製作された能代春慶は、専ら武家用の製品でした。明治に入り博覧会への出品を契機に器種やデザインが大きく様変わりしています。能代春慶は、1873年ウィーン万国博覧会で有功賞牌を受賞するなど、早くから海外で評価されました。



Q. 角館、阿仁、大館の榊細工たち  
どれがどこの産地かな？

秋田に榊細工の産地が3つもあったって知ってました?!私がお案内します!



江戸期の能代春慶  
(能代市教育委員会蔵)



明治期以降の能代春慶  
(能代市教育委員会蔵)



ウィーン万国博覧会受賞メダル  
左:表 右:裏 (個人蔵)

### Access

〒010-0124  
秋田市金足鳩崎字後山52  
TEL 018-873-4121

ホームページ・Instagram  
Facebookあります。

秋田県立博物館



秋田県立博物館

JR

奥羽線・男鹿線  
「追分駅」下車  
徒歩20分

バス

秋田中央交通五城目線  
「金足農業高校入口」下車  
徒歩15分

自動車

秋田自動車道  
「昭和男鹿半島IC」から10分  
「秋田北IC」から15分

